

# 卒業研究



科目名	卒業研究Ⅱ	開講時期	4年 通年
担当教員	平井利明	単位数	4
テーマ	視覚障害と視覚障害者への支援		
授業の概要と目的	<p>(概要)</p> <p>原則として視覚障害・視覚障害者の支援をテーマに、テーマにしたがった論文作成を行う。</p> <p>(目的)</p> <p>論文作成を通して視覚障害や視覚障害者に関する研究を行い、成果物を作成することで大学生としてのまとめと専門知識等を獲得する。</p>		
授業計画	<p>第 1回 論文の書き方とテーマの選定</p> <p>第 2回 各種論文を読む</p> <p>第 3回 ～ 第 4回 個人およびグループによる卒業研究テーマの決定と研究</p> <p>第 5回 ～ 第 14回 個人およびグループによる卒業研究</p> <p>第 15回 論文進捗状況把握と中間発表</p> <p>第 16回 ～ 第 29回 各自およびグループによる卒業研究テーマの決定と研究</p> <p>第 30回 ゼミによる論文まとめと発表</p>		
テキスト	各自の論文テーマにしたがった図書の使用		
参考文献	研究内容等により個人やグループに適宜紹介します。		
成績評価の基準・方法	卒業研究制作物の完成度と内容により評価します。		
質問・相談の受付方法	講義終了後、昼休み等 メールは常時受け付け（学内ネットワーク）		
履修要件	卒業研究Ⅰを履修した学生		
特別学生の履修の可否	科目等履修生【不可】 聴講生【不可】		
その他	視覚障害者支援やさまざまな障害者への支援に関係した研究と論文作成です。障害者支援に対して積極的に取り組むことができます。		

科目名	卒業研究 II	開講時期	4年 通年
担当教員	山城 厚生	単位数	4
テーマ	『精神保健福祉』学びの集大成。		
授業の概要と目的	<p>(概要)</p> <p>卒業研究 I に続き、精神保健及び精神保健福祉の諸問題に関する、各自のテーマにより研究を進めその検証及び考察をする。</p> <p>(目的)</p> <p>卒業研究 II を履修し研究活動を行うことにより、将来精神保健福祉業務に従事したとき、現状を是とするのみでなく、常に前進・変革を求めるようとする問題意識を持つことや研究的態度・姿勢（視点）を養う。</p>		
授業計画	<ul style="list-style-type: none"> <li>・卒業研究 I を踏まえ、自己のテーマにより研究活動を進める。</li> <li>・随時ゼミのグループ討議にて進捗状況を報告し合いレポートをまとめる。</li> <li>・本学において精神保健福祉を学んだことの集大成とする。</li> </ul> <p>(ゼミの進め方)</p> <p>① グループセッション</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・卒業研究 I の振り返り（反省） (1 ～ 2回)</li> <li>・卒業研究 II のスケジュールの確認 (3 ～ 4回)</li> </ul> <p>② 個別作業（個別指導）</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・個別研究活動（資料収集・調査・整理） (5 ～20回)</li> <li>・研究報告のまとめ (21 ～25回)</li> <li>・研究報告（レポート）の提出・発表資料の準備 (26 ～28回)</li> </ul> <p>③ 卒業研究発表</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・卒業研究発表 (29回)</li> <li>・反省会 (30回)</li> </ul>		
テキスト	・各自の関係資料による		
参考文献	・随意時 紹介する。		
成績評価の基準・方法	・研究への取り組み（40%） 研究のまとめ（50%） 出席・参加態度（10%）		
質問・相談の受付方法	・ゼミの時間 時間外対応（研究室 研究棟 302 号室）		
履修要件	・卒業研究 I にて精神保健及び精神保健福祉ゼミを履修した学生		
特別学生の履修の可否	科目等履修生【 不可 】 聴 講 生 【 不可 】		
その他	・地域の精神保健福祉関係者の協力を得て進める。		

科目名	卒業研究Ⅱ	開講時期	4年 通年
担当教員	藤本 昌樹	単位数	4
テーマ	卒業研究を完成させるため、自ら課題に取り組む		
授業の概要と目的	<p>本演習は、各人の卒業論文のテーマを、論文形式にまとめていくことを目的とする。</p> <p>基本的に、卒業論文作成に入る為、各人の関心領域に沿った形で研究が進められるので、積極的に文献講読し、調査・実験を行う必要がある。</p>		
授業計画	<p>卒業論文は、乳幼児期から大学生くらいを対象とした研究で、自らが関心を持ったテーマを絞って行ってほしい。以下は、およそ卒論計画である。このスケジュールで動けることを心がけてほしい。</p> <p>3月 卒業論文のテーマの決定</p> <p>4月 卒論執筆開始（過去の研究論文を読み、まとめ、レビューする）</p> <p>5月 研究計画の決定と実行（データの収集）</p> <p>6月 データの分析</p> <p>7月～9月 論文の結果・考察の執筆（夏休み中に中間発表を予定）</p> <p>10月 卒論発表の最終調整</p> <p>11月 卒論の修正</p> <p>12月 卒論と要旨の提出</p> <p>1月 卒論発表練習</p> <p>2月 卒論発表</p>		
テキスト	授業で指定します。		
参考文献			
成績評価の基準・方法	卒業論文の完成と内容により評価（100%）		
質問・相談の受付方法	質問を受け付けるので積極的に質問をし、内容の理解に努めてほしい。その他、随時質問は受け付ける。		
履修要件			
特別学生の履修の可否	科目等履修生【不可】 聴講生【不可】		
その他			

科目名	卒業研究Ⅱ	開講時期	4年通年
担当教員	橋木てる子	単位数	4
テーマ	発達心理学、社会心理学、臨床心理学に関する知識を深める		
授業の概要と目的	学生が興味あるテーマについて、自主的に学ぶ機会とすることを目的とする。		
授業計画	<p>希望する学生は下記のいずれかを選択する。</p> <p>1. 質問紙調査による研究</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1) 調査計画を立てる(目的、対象者、質問項目など)</li> <li>2) 質問紙の作成</li> <li>3) 質問紙調査の実施(調査依頼、配布と回収)</li> <li>4) データ入力</li> <li>5) 結果の分析</li> <li>6) 卒業研究発表会で発表する</li> </ol> <p>2. 文献による研究</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1) テーマに関連する専門書、論文を選択する(3冊以上)</li> <li>2) 文献を読んで、内容をまとめる</li> <li>3) テーマに即して文献内容について考察する</li> </ol>		
テキスト	必要に応じて指定		
参考文献	必要に応じて指定		
成績評価の基準・方法	卒業研究発表会の発表内容、卒業研究に取り組む真摯な態度から総合的に評価する		
質問・相談の受付方法	連絡の上、研究室で受けつける		
履修要件	特になし		
特別学生の履修の可否	科目等履修生【不可】 聴講生【不可】		
その他			

科目名	卒業研究Ⅱ	開講時期	4年 通年
担当教員	張 昌鎬	単位数	4
テーマ	①高齢者ニーズ、虐待、介護予防など的高齢者に関する分野 ②障害者の自己決定や社会参加など障害者に関する分野 ③貧困者の自立支援に関する分野 ④ケアマネジメントや地域包括支援センターなどに関する分野		
授業の概要と目的	概要：卒業研究Ⅱでは、研究報告書作成と研究報告書の準備および練習。  目標：卒業後、決まったテーマに関して発表するとき、発表できるように論文の書き方、資料の収集・分析・まとめ方に関して指導する。		
授業計画	1. 前期は研究テーマを見つけ、研究の目的の設定、研究方法、などに関して個別に指導し、下書きまで。 2. 後期はそれぞれのテーマにそって、個別的に指導し、論文としてまとめる。 3. 論文発表の準備や発表練習		
テキスト	テキストはないが、必要な資料は講義中に紹介する。		
参考文献	それぞれのテーマの必要に応じて紹介や探し方法を教える。		
成績評価の基準・方法	積極性と出席		
質問・相談の受付方法	講義終了後あるいはオフィスアワーを利用する。		
履修要件	なし		
特別学生の履修の可否	科目等履修生【不可】 聴講生【不可】		
その他	積極的に授業に参加することと、自分の役割を遂行すること 積極的な質問を歓迎する。		

科目名	卒業研究Ⅱ	開講時期	4年 通年
担当教員	石井 幹太	単位数	4
テーマ	福祉と環境の複合化に成る福祉製品と福祉機器の創案・創出およびそれらを基幹とした地域コミュニティの形成と地域の活性化の創案・創出研究		
授業の概要と目的	福祉と環境の複合化に成る新しい時代に適合した福祉製品と福祉機器の創案・創出に向けての基礎事項の学習・習得（文献検索法や特許、研究手法など）および製品と機器の創案と創出を研究目的とする。また、地域固有の福祉製品や福祉機器を基幹とした地域コミュニティの形成および地域の活性化手法の創案と創出を研究目的とする。		
授業計画	ゼミを中心に、研究テーマの実践、研究成果のとりまとめなどを卒業研究Ⅰに連携継続して実施する。		
テキスト	特になし		
参考文献	特になし		
成績評価の基準・方法	ゼミへの出欠状況(15点)と研究実績(計画立案:30点, 発表:30点, とりまとめ:25点)により合計100点満点として評価する。		
質問・相談の受付方法	卒業研究実施中および空いている時間帯(研究室)		
履修要件	卒業研究Ⅰ単位認定者		
特別学生の履修の可否	科目等履修生【不可】 聴講生【不可】		
その他	まじめに、真剣に、長続きできるように研究課題に取り組むこと。		

科目名	卒業研究Ⅱ	開講時期	4年 通年
担当教員	加藤あけみ	単位数	4
テーマ	就労に関する研究		
授業の概要と目的	卒業研究Ⅰでライフイベントの視点から検討した就労について、各人が興味をもったテーマにしたがって研究を進める。文献検索や資料収集について学び、議論を通して研究成果をまとめてゆく。		
授業計画	<p>前期は、演習のテーマに関する課題を持ち寄って討議を行い、その討議を通して各人が卒業研究のテーマを見出してゆく。研究テーマが決定後、文献検索や資料収集を行う。なお、研究テーマは前期中に決定し、夏休みも継続して文献検索や資料収集を行い、各人が研究を進める</p> <p>後期は、研究の成果を発表しあいながら、各人で研究を進め、研究成果のまとめを行う。</p> <p>なお、詳細な授業計画はメンバーとともに検討しながら決める。</p>		
テキスト	適宜、プリントを配布		
参考文献	適宜、紹介する。		
成績評価の基準・方法	卒業研究の成果を評価		
質問・相談の受付方法	適宜、受け付ける。		
履修要件	テーマへの興味と演習への積極的な参加を基本要件とする		
特別学生の履修の可否	科目等履修生【不可】 聴講生【不可】		
その他	<p>お互いの個性を尊重しながら、全員が生き生きと参加できる演習を目指します。ですから、コミュニケーションを大切にしたいと思っています。欠席はもちろん遅刻は禁止。とはいえ、やむなく遅刻、欠席する場合もあるでしょう。そのときは教員あるいは友人に連絡して演習に支障のないようにしてください。</p>		

科目名	卒業研究Ⅱ	開講時期	4年通年
担当教員	相原 真人	単位数	4
テーマ	地域におけるホームスタート利用ニーズを把握するための調査研究		
授業の概要と目的	卒業研究Ⅰでは、家庭滞在型子育て支援「ホームスタート」の虐待予防策としての有効性を確認した。卒業研究Ⅱではメンバーが静岡県内の市町に出向き、アンケート調査またはインタビュー調査を実施して、静岡県内にもホームスタートを必要とする人々が存在していることを確認するとともに調査研究報告書を作成・配布することにより、静岡県内におけるホームスタート・サービス開始に向けての礎石となることを目指す。		
授業計画	<p>4年前期</p> <p>メンバー全員で討論し、調査研究の方向性を確定するとともに、インタビュー調査の場合は質問項目を、アンケート調査の場合は質問紙を、それぞれ作成する。</p> <p>夏休み</p> <p>メンバー各々が各市町に出向き、保護者、保育所、子育てサロン、行政機関、等からインタビュー調査やアンケート調査によりデータを収集する。</p> <p>4年後期</p> <p>得られたデータを集計・分析して結論を導き出し、最終的な報告書を分担して執筆するとともに、学内研究発表会でも発表する。報告書は印刷・製本し、調査に協力していただいた各位に配布する。</p>		
テキスト	開講後に指示する。		
参考文献	その都度紹介する。		
成績評価の基準・方法	ゼミへの貢献度（50%）＋レジュメや態度等の発表内容（50%）により評価する。		
質問・相談の受付方法	ゼミとは、自ら考え発表し、質問や意見交換を行いつつ、相互支援関係を構築する場である。質問や相談は基本的にはゼミ時間中に行う。ただし個別の相談は随時受け付ける。		
履修要件	卒業研究Ⅰ（相原研究室）を履修し、単位を修得した者。		
特別学生の履修の可否	科目等履修生【不可】 聴講生【不可】		
その他	「卒業研究Ⅰ」をベースにして「卒業研究Ⅱ」へ移行することを考えているため、「卒業研究Ⅰ」と「卒業研究Ⅱ」は継続履修することが望ましい。		

科目名	卒業研究Ⅱ	開講時期	4年 通年
担当教員	岩井 宏	単位数	4
テーマ	医療・福祉に関連した物作り		
授業の概要 と目的	<p>(1) 自走用の車いすの負荷特性を解析し、新しい車いすの開発を目指すための研究である。</p> <p>(2) 障害を援助、学習するためのソフトウェアの開発を行う。詳細は相談の上、決定する。</p> <p>(3) 診療情報管理士の仕事として欠かせないコーディングの助けとなるデータベースの開発を行う。</p> <p>3年次から研究してきた内容を発表し、卒業論文としてまとめることが主目的となる。</p>		
授業計画	<p>前期</p> <p>1～2 3年次に続く研究内容・テーマの詳細の決定</p> <p>3～15 内容に合わせた資料収集と作成 研究テーマによって異なる。</p> <p>後期</p> <p>16～20 内容に合わせた物作り 研究テーマによって異なる。</p> <p>21～30 研究内容のまとめ ・発表会用原稿作成 ・卒業論文作成</p>		
テキスト	研究テーマにあわせたものを卒業研究中に指定		
参考文献	講義中適宜紹介する。		
成績評価の 基準・方法	<p>研究への取り組みと成果により評価する。</p> <p>卒業論文 60%</p> <p>取り組み 40%</p>		
質問・相談 の受付方法	随時受け付けます。		
履修要件	基本的には卒業研究Ⅰ（岩井）を受講したものが望ましい。		
特別学生の 履修の可否	<p>科目等履修生 【不可】</p> <p>聴講生 【不可】</p>		
その他	理由があって卒業研究を変更する学生でとてもやる気のある人は受け付けます。		

科目名	卒業研究Ⅱ	開講時期	4年 通年
担当教員	横溝一浩	単位数	4
テーマ	卒業研究を通して社会学的研究の基本的な視座・方法論を学ぶ		
授業の概要と目的	卒業研究Ⅰで設定した領域から、具体的課題を設定し、研究活動を通してより深くかつ広い具体的な理解を得ることを目的とする。さらに、研究室のメンバーとも適宜協力しながら研究を進め、研究テーマについて深く学習し研究を進め論文を作成する。		
授業計画	<p>(1) 卒業論文の作成（以下の①～⑥の点に留意しながら作成する）</p> <p>①テーマを選んだ動機・問題意識の鮮明化 ②自分の結論・主張の明確化</p> <p>③結論を導くための手法・技法（モデル） ④各章・各節の暫定的結論の関連</p> <p>⑤論文全体の結論 ⑥各章・各節の内容上の相互関連</p> <p>(2) 作成した卒業論文の要約作成、発表</p>		
テキスト	なし		
参考文献	大塚久雄「社会科学の方法—ヴェーバーとマルクス」岩波新書		
成績評価の基準・方法	<p>卒業論文は、以下の項目に従い総合的に評価する</p> <p>(1) テーマ全体の問題意識が明確になっているか</p> <p>①なぜ自分の設定したテーマが重要なのか（社会的背景などを踏まえて）</p> <p>②なぜいまそのテーマを扱うのか（問題意識が十分に醸成されているか）</p> <p>③どれだけ広がりのあるテーマか</p> <p>(2) 全体の結論が明確になっているか</p> <p>①自分の導いた結論は何か（何が明らかになって、何が研究の限界であったか）</p> <p>②その結論からいえる主張・意見は何か</p> <p>③結論の一般性はどの程度か</p> <p>④今後の研究課題</p> <p>(3) 論文全体の構成は適切であるか（因果関係と論理展開）</p> <p>(4) 適切な文献を選択し、利用しているか</p> <p>①自分の結論・主張を補完する文献の選択・利用</p> <p>②自分の結論・主張を対立する文献の選択・利用</p> <p>③必要なデータを提供する文献の選択・利用</p> <p>※(1)と(2)については、評価上、最も重視する項目であり、これらの項目が不十分なものは卒業論文として成立しないので、十分留意した上で作業を進めること。</p>		
質問・相談の受付方法	e-mailによる受付；随時受付（yokomizo@suw.ac.jp） 直接、質問・相談する場合：研究室（201）にて授業・会議の空き時間に受付		
履修要件	卒業研究Ⅰを履修していること		
特別学生の履修の可否	科目等履修生【不可】 聴講生【不可】		
その他	卒業論文は、大学生活の集大成といえるものです。自分にとって何のための卒業論文なのか、目的意識をしっかりと持って研究を進めてください。		

科目名	卒業研究Ⅱ	開講時期	4年 通年
担当教員	石光和雅	単位数	4
テーマ	医療福祉とソーシャルワークについて		
授業の概要と目的	<p><b>【概要】</b> 卒業研究Ⅰで設定したテーマに沿って卒業論文を作成する。</p> <p><b>【目的】</b> 卒業論文を作成することによって、医療福祉とソーシャルワークに関する問題点と課題を明確にするとともに、各自が問題意識を持って社会へ羽ばたいていく力をつけることを目的とする。</p>		
授業計画	<p><b>【前期】</b> 第1回 卒業論文テーマの確認 第2回～第4回 4月末完成を目処に、共同作業としての文献目録作成 第5回～第14回 個別作業としての卒業論文の作成 論文指導（個別） 第15回 卒業論文中間報告会</p> <p><b>【後期】</b> 第16回～第29回 論文のまとめと発表会準備 第30回 卒業論文発表会</p>		
テキスト	ゼミの中で、適宜プリントや資料を配付します。		
参考文献	ゼミの中で、適宜紹介します。		
成績評価の基準・方法	ゼミへの参加度と卒論発表会の内容で評価します。 (配点 50 : 50)		
質問・相談の受付方法	オフィスアワー（後日掲示）を積極的に利用して下さい。 kanma@suw.ac.jp へどうぞ		
履修要件	特に設けません。		
特別学生の履修の可否	科目等履修生【不可】 聴講生【不可】		
その他	文献検索や読み込みなど、個人作業が要求されます。上記の内容の他、ゼミ生で希望を出し合い、研修や授業として行いたいことを随時企画していきます。		

科目名	卒業研究Ⅱ	開講時期	4年 通年
担当教員	三岳 貴彦	単位数	4
テーマ	福祉文化論、福祉レクリエーション、社会福祉援助技術。		
授業の概要と目的	<p>①社会福祉領域で行われるレクリエーション活動</p> <p>②社会福祉に於ける諸問題</p> <p>等を中心とした卒業研究Ⅰで各自が設定した研究テーマに基づき、卒業論文を作成します。</p>		
授業計画	<p>前期</p> <p>第1回～第15回</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・研究テーマや調査方法の再検討を行い、卒業論文での結論を明確にする。</li> <li>・設定した研究テーマについて文献、資料等の収集。</li> <li>・社会調査等実施する場合は、調査活動に向けての準備、実施。</li> <li>・進捗途中の文献研究、社会調査の状況についてゼミの中で報告会を実施。</li> <li>・卒業論文の構成の再検討、作成。</li> </ul> <p>後期</p> <p>第16回～第26回</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・卒業論文の作成。</li> <li>・進捗途中の文献研究、社会調査の状況についてゼミの中で報告会を実施。</li> </ul> <p>第27回～第30回</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・卒業論文のプレゼンテーション、資料作成指導を行う。</li> </ul> <p>各自研究領域に合わせた指導を行う為、個別指導の実施が増えますが、進捗途中の論文についてゼミの中で報告会を実施します。そこでの質疑応答、ディスカッションを通じて課題を発見し、更に研究を進めていく事になります。</p>		
テキスト	適宜紹介する。		
参考文献	適宜紹介する。		
成績評価の基準・方法	<p>卒業論文、授業中の態度、積極性。</p> <p>又、授業の中で提出されるレポート、プレゼンテーション等の課題。</p>		
質問・相談の受付方法	授業、会議以外の空き時間であれば質問、相談に応じますが、事前に時間予約がある方が円滑です。場所は508研究室です。		
履修要件	卒業研究Ⅰを履修した学生。		
特別学生の履修の可否	<p>科目等履修生【不可】</p> <p>聴講生【不可】</p>		
その他	目的意識を持って、主体的に取り組む事。		